

県内山車まつり関連製品のためのデザイン開発

1. はじめに

平成28年に、我が国の重要無形文化財指定の山車祭33件がユネスコ無形文化遺産リストに登録されました。本県からは犬山祭をはじめ全国最多である5件の山車祭が登録され、愛知の山車まつりを地域資源、観光資源として広く活用する機運が高まっています。

そこで平成28年度の経常研究では、瀬戸焼の新製品開発、新販路開拓の指針とするため、県内の主要山車祭の現地調査を行い、山車まつりに固有のデザイン要素を抽出し、山車祭関連の様々な製品に応用展開可能な絵柄素材をデザインしました。

なお、この研究は、県内外で文化遺産関連事業を広く展開しているNPO法人古代瀬波（にわ）の里・文化遺産ネットワークと連携して研究を実施しました。

2. 山車祭調査

ユネスコ無形文化遺産の5行事をはじめ、県下の代表的な山車祭について、①運営、開催地域、交通、観光等祭の実施状況、②土産品等関連グッズ類の現状、取扱状況等の調査、③山車祭関連資料、解説、報告書等の資料収集、④祭風景、山車、山車装飾等の写真・動画撮影などの現地調査を行いました。

調査対象は以下のとおりです。

犬山祭*（犬山市）、知立まつり*（知立市）、亀崎潮干祭*（半田市）、尾張津島天王祭*（津島市）、須成祭*（蟹江市）、岡田春まつり（知多市）、筒井町天王祭（名古屋市東区）、出来町天王祭（名古屋市東区）（*はユネスコ無形文化遺産登録）

3. 調査結果

調査時はユネスコ無形文化遺産登録を受け、交通の便の良い祭の人出は格段に増えており、特に犬山祭、尾張津島天王祭は大変なにぎわいでした。しかし、祭関連の土産品、記念品は、祭の来場者の多寡にかかわらず、質、量ともに乏しいことが判明しました。

ただし、亀崎潮干祭のみ例外的にオリジナルグッズが多数見受けられましたが、これは昭和

54年から始まった大規模観光イベント「半田山車まつり」の公式グッズとして多数の商品が企画・製作されたことが要因と考えられ、新規な市場の可能性が感じられました。

デザイン要素としては、①山車、②からくり人形や山車文楽等の山車演芸、③山車に見られる工芸装飾、④山車曳行の見せ場等、祭風景、⑤神事などで用いられる祭具などに分類できることが判明しました。

4. 絵柄の作成

絵柄を作成するにあたり、①メーカーの持つ既製素材の活用を想定し、様々なアイテムに応用展開できること、②アレンジやバリエーション展開が可能であることの2点を条件として基本的な絵柄とアレンジ方法を考案しました。

一例として、山車をモチーフとしたものは、各地の山車の形の特徴や面白さをピクトグラム風に簡略化、象徴化しました。これらの画像をベースに、傾ける、拡大縮小するなどして動きや遠近感を出したり、各地の特徴的景観を加える、山車を操る人等人物群を加えるなどして臨場感を出したりするなどのアレンジが可能となります。図1は作成した絵柄の一例です。

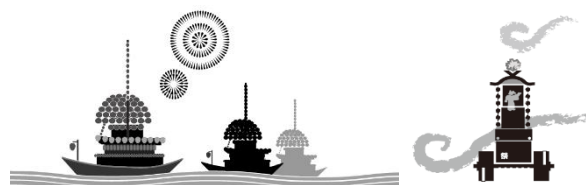


図1 尾張津島天王祭（左）、犬山祭（右）をモチーフにしたデザイン展開例

5. おわりに

今後需要が見込まれる「山車まつり」の土産品や記念品開発に向けて、県内の主要山車祭を調査し、山車をモチーフに山車祭関連の様々な用途、アイテムに広く応用、展開できる絵柄素材をデザインしました。ここでご紹介するのはほんの一部です。取材で得た写真などの情報も多くありますので、自社製品のデザインに活用を希望されるメーカーなどがありましたら、当試験場までご連絡ください。



産業技術センター 瀬戸窯業試験場 製品開発室 長谷川恵子 (0561-21-2116)
研究テーマ：陶磁器デザイン、絵付け
担当分野：デザイン